

教養系学科カリキュラムの共通性
—授業科目名称の計量分析を通じて—

The Commonality in the Curriculum of Liberal Arts Departments at Japanese Universities:
Quantitative Analysis of Course Titles

栗原 郁太, 串本 剛
KURIHARA Ikuta, KUSHIMOTO Takeshi

1. 課題設定	21
2. 教養系学科を検討する意義	22
2.1 「総合的教養教育」の重視	22
2.2 先行研究の検討	22
3. 分析の枠組みとデータセット	23
3.1 分析の枠組み	23
3.2 データセット	24
4. 【分析1】学部・学科・学位付記専攻分野名称の分類	24
4.1 学問分野分類のための分類軸	24
4.2 学部名称の分類	24
4.3 学科名称の分類	26
4.4 学位付記専攻分野名称の分類	27
4.5 小括	27
5. 【分析2】授業科目名称の計量分析	28
5.1 授業科目分類の設定	28
5.2 授業科目分類による開講科目数の割合（相対度数）	28
5.3 相対度数と学科属性に係る各変数の相関	31
6. まとめと議論	33
6.1 要約	33
6.2 議論	34
ABSTRACT	38

教養系学科カリキュラムの共通性 —授業科目名称の計量分析を通じて—

栗原 郁太*, 串本 剛**

要 旨

本稿では、日本の大学における31の教養系学科のカリキュラムについて、その共通性がどのような範囲でどのように存在しているか、考察した。分析は大きく分けて2つの方法で行った。まず、教養系学科の学部名称、学科名称及び学位に付記する専攻分野の名称を、既存の「学問分野分類」を用いて分類・整理した。次に、計量テキスト分析により作成した独自の「授業科目分類」を用いて、2018年度入学生に適用される教育課程の授業科目を分類し、分野ごとの開講科目割合（相対度数）を算出した。その結果、43分野のうち22分野については、9割以上の学科で少なくとも一つの授業科目が提供されていることが明らかとなった。さらに分野によっては、相対度数と学科属性の間に相関関係があることも判明した。

キーワード

教養系学科、カリキュラムの共通性、大学の教養概念、授業科目、計量テキスト分析

1. 課題設定

学士課程教育の質保証を目的として、各国で多くの政策が打ち出され、各大学の試行錯誤が続いている。国レベルの主要施策である機関別認証評価制度が動き出したのは、我が国では2004年度のことだが、それ以来一部分的にはそれ以前から一質保証に関連する取り組みが、国や大学あるいは今日で言う学位プログラムの単位で、絶え間なく実施されている。

質保証の最終目標は極論すれば、卒業生に一定の範囲と水準の学修成果を身につけさせることである。しかし、学修成果そのものを直接確認することが容易ではないため、学修成果に結びつくであろう学修経験の有無を調査したり、学修経験の前提となる教育の諸側面を整備したりすることになる。その意味で教員の資格や施設・設備の要件を定める大学設置基準は、学修成果を実現する上での大前提を示した、質保証のための一施策といえる。

また日本学術会議の主導の下で、大学教育の分

野別質保証の参照基準が作成され、各学問分野で参照基準が順次公表される施策も進んでいる。しかし、大学教育で実施される全ての分野を網羅することは多大な時間と労力を要する。例えば本稿に関連のある教養学関係の教育課程は、分野の参照基準という考え方に馴染まないとされ、「教育課程編成上の参照基準を策定するために取り上げる分野」において、当分取り上げない（広田 2010）という見解がある。また「教養学」なる学問体系も不在（串本 2004）という見方が依然として一般的といえる。こうした背景には、教養系学科の教育課程（カリキュラム）が体系化されておらず、その実状が一般的に認識されにくい点があると考えられる。

そこで本稿は、学修成果の範囲と水準を一定に保つための基本要件であるカリキュラムの共通性に着目し、教養系学科を事例として取り上げる。そもそもカリキュラムという用語の含意は多様で、計画・実施・達成という段階の違いはもとより、教育課程と同義に捉え「計画」の段階に限定しても、内容・方法・期間の3要素は最低限考慮する

* 津田塾大学 事務局 研究支援事務室 事務室長補佐

** 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授

必要がある¹。とはいえ、全ての論点を一度に論じることが難しいので、ここでは開講されている授業科目の名称を手掛かりに、「計画」の「内容」における共通性に焦点を絞る。

次に、本稿における教養系学科については、学科名称に「教養」「リベラルアーツ」「アーツ・アンド・サイエンス」といった教養に関する名称を含む学科群と定義しておく。2000年代以降に急増した教養系学科は、その出自や教育目的において相当な多様性を持っていることが予想される。そこに見出されるカリキュラムの共通性とはいかなるものか、本稿では2018年度時点の全31学科のデータを用いて実証的に明らかにする。

2. 教養系学科を検討する意義

2.1 「総合的教養教育」の重視

日本の学士課程教育においては概して、大きくは二つに区分される科目群によって教育が行われている。一つは旧一般教育を基底にその役割を引き継いだ共通科目であり、そこでは幅広い知識や汎用的スキルを培う、いわゆる教養教育が行われる。もう一つは、各学問分野に立脚した専門科目群による専門教育である。教養系学科の特徴は、両者を併せたカリキュラムの全体において、明示的に教養教育を追求する点にある。

カリキュラム全体を通じた教養教育のあり方は、高等教育政策の諸答申の中において種々の名称により、理念的に提示されてきた。具体的には、まず「四六答申」(中央教育審議会 1971)において、大学の教育課程の類型として「将来の社会的進路のあまり細分化されない区分に応じて、総合的な教育課程により、専門的な教養を身につけさせようとするもの(総合領域型)」と示された。「グローバル化答申」(大学審議会 2000)では「各大学の理念・目標に基づく主体的判断により、米国におけるリベラルアーツ・カレッジのような教養教育を中心とした幅広い教育プログラムを持つ学部への改組転換を促進」することが推奨された。「教

養教育答申」(中央教育審議会 2002)では、「教養教育重点大学(仮称)」として重点的に支援することにも触れられた。また、「将来像答申」(中央教育審議会 2005)の中で示された大学の機能類型として「総合的教養教育」としても示され、最近の「グランドデザイン答申」(中央教育審議会 2018)でもこの機能の位置づけが継承されている。

以上のように、学士課程教育全体を通じたいわゆる「総合的教養教育」の重要性は、理念的には再三強調されてきたものの、具体的なカリキュラムのあり方については、各審議会等からは示されていない。他方、総合的教養教育の理念に最も親和的であると考えられる教養系学科においては、各大学の理念に基づき実際に教育が行われている。こうした現状からも、共通科目と専門科目を通じて教養教育を実施する教養系学科を対象に、全体的なカリキュラムの共通性を把握することが、総合的教養教育のあり方を検討する上で重要な作業になると考えられる。

2.2 先行研究の検討

本稿は、教養系学科のカリキュラムを分析し、その中にある共通性を考察する研究である。また同時に、この作業を通じて大学教育における教養概念を検討する側面も持ち合わせている。この点を踏まえ、教養概念や教養系学部を対象にした先行研究を検討していきたい。

まず、教養に関する学部としての教養系学部を対象とした先行研究としては、関(1986)や館(1996)がある。関は、当時の国立大学を対象として、一般教育と専門教育の有機的関連性の観点から、アメリカの大学のリベラルアーツの学部への指向性を有する教養学部、文理学部及び学芸学部が創設された旨を整理した。館は、この時の国公私立大学の教養学部等の学科名称を分析し、「専門としての教養」の視座から、教養概念を検討した。

この館の論稿を踏まえ、栗原(2018)が、教養系学部の学部・学科名称及び学位付記専攻分野に

¹ 書名からそれとわかる学士課程教育のカリキュラムを扱った専門書は、初・中等教育を対象としたものに比べ極めて限られている(井門 1985, 清水・井門 1997, 有本編 2003, 中留 2012, 日本高等教育開発協会・ベネッセ教育研究所編 2016)。これらの専門書では、カリキュラムの定義や編成原理などのいわゆるカリキュラム論にはほとんど触れておらず、事例の紹介が中心である。学士課程教育を念頭に置いたカリキュラム論としては、平凡社の『大学事典』(児玉他 2018)所収の関連項目や、日本カリキュラム学会が編集した『現代カリキュラム研究の動向と展望』における松下(2019)の解説が参考になる。

着目し、学部・学科・学位の各名称を「学問分野分類」（「学芸」「科学」「学際」又は「職業」のいずれかに分類し整理）により分析している。さらに教養系学部で扱うディシプリンについて、学位に付記する専攻分野の名称（以下、学位付記専攻分野名称）を専攻区分別（大学改革支援・学位授与機構 2016）に分類し、「専門としての教養」の幅広さについて考察したところ、①「学芸」分野：〈文学、国語・国文学、英語・英米文学、歴史学、心理学、社会学、経済学、音楽〉、②「学芸・科学」「学際」分野：〈教養・学芸、地域研究、国際関係〉、③「科学」分野：〈理学〉、④「職業」分野：〈教育学、法学、商学、経営学、工学²、家政学及び体育学〉といった学問分野が、包摂されていることを明らかにした。しかし、ここに挙げた中の「教養・学芸」のカテゴリーについては、具体的な専門領域の構成は検討されていない。この点が本稿の課題意識となっている。

教養系学部のカリキュラムについて、その構造と多様性を検討した研究として本庄（2019）がある。そこでは、3つのカリキュラム類型ごとに学びの特徴があることを示した上で、教養系学部のカリキュラム構造は、全般的にはその主な母体の一つである人文系の学部近く、学びの内容に関しては、一般教育課程は他の分野と同様にスキル化が進み、専門教育課程は、母体の影響の下、人文学、社会科学を中心に学際分野を加えたものと整理している。

また、教養系学部の授業科目名称の分析を通じて、学際性の特質（栗原 2019a）や、教育内容の多様性（栗原 2019b）を検討した論稿もある。これら2つの研究は本稿と分析方法が重なる部分が少なくないので、以下に要点を確認しておこう。

いずれの研究も授業科目名称に着目しており、前述の「学問分野分類」（栗原 2018）を用いて専門教育科目の授業科目の分類を行い、これらを教養系学部における各学科を単位として集計し、コレスポネン分析を実施し各学科間の位置関係を明示した。その結果、教養系学部ではその教育内容の多様性が顕著で、種々の学科名称と、各学科等の開講科目数に係る学問分野の構成割合の違いに現れていた（栗原 2019b）。また、授業科目名

称の類出語の分析では、専門教育の授業科目の中心的主題が、かなり幅広い領域で構成されていることが示された（栗原 2019a）。

しかしながらそうした中でも、コレスポネン分析における学科間の位置関係からは、教養系学部における教養系学科の専門教育科目は、「学芸」分野の授業科目がかなり多い状況が明らかとなった。ゆえにそれらのカリキュラムには何らかの類似点があると推定される。こうした点から、教養系学科群の授業科目に一定の共通性があるのではないか、という仮説を導出することができる。

以上の先行研究からは、大学をメゾレベルで分析を行うには、学部・学科・学位の各名称を学問分野分類の分類軸を用いて検討したり、カリキュラム分析としてその構造の類型化や、授業科目名称の分析を行う方法があることが示唆される。

なお、カリキュラムには、教育のレベルや教育目的に沿って科目を組み合わせて提供することによって一つの理念がある（井門 1985）との見解がある。授業科目名称は、教育目的を踏まえた教育上の領域・教育方法・授業形態を集約的に示した情報と捉えることができるため（栗原 2019a）、本稿でもそれらを分析対象の中心に据える。

こうした知見を踏まえ、本稿では、教養系学科におけるカリキュラムの共通性を検討することを目的とし、学部・学科・学位の各名称と授業科目名称の計量分析を通じて実証的に考察していくこととする。

3. 分析の枠組みとデータセット

3.1 分析の枠組み

本稿における分析の枠組みは図1に示すとおりで、大きく分けて2つの分析を行う。

【分析1】学部・学科・学位付記専攻分野名称の分類

最初に、教養系学科に係る学部名称、学科名称及び学位付記専攻分野名称を整理する。この作業では栗原（2018, 2019a）と同様に、後述する学問分野分類を用いて、各名称を「学芸」「科学」「学際」又は「職業」のいずれかに分類し、析出された結果の割合を確認する。

【分析2】授業科目名称の計量分析

この分析では、まず開講されている授業科目名

² 2017年度時点では、首都大学東京都市教養学部理工学系が分析対象として含まれており、学士（工学）が授与されていた。このため「工学」分野が含まれている。

【分析1】学問分野分類による教養系学科の基本情報の分類

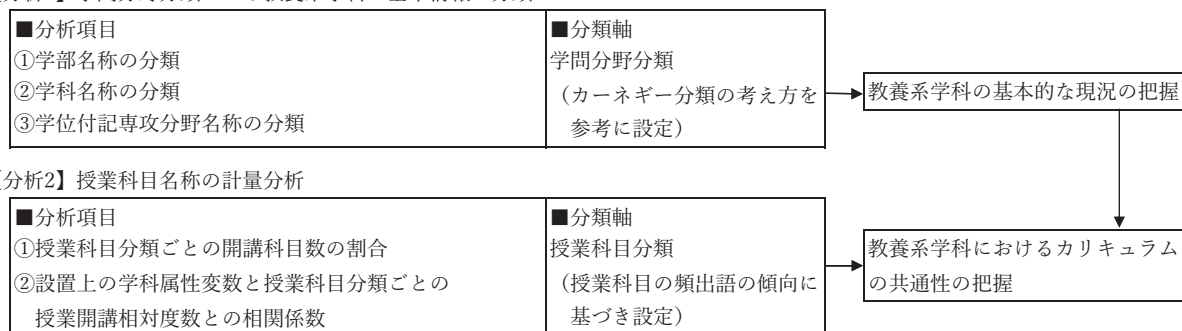


図1 分析の枠組み

称の頻出語を把握・解釈し、共通性の分類軸としての「授業科目分類」を設定する。頻出語の計測には、計量テキストツールの「KH Coder」(樋口2014)を用いる。次に、全授業科目データを「授業科目分類」の各分野に分類して置き換え、各教養系学科の全開講科目数を分母に、分野毎の科目数を分子とした相対度数を算出する。その値を各教養系学科間で比較し、開講されている授業科目の分野がどの程度共通しているか、分析を行う。最後に、上述の相対度数と、各学科の属性に係る変数(偏差値、学科設置年度、その他)との相関係数を求めてその関連を確認し、カリキュラムの共通性の背景を検討していく。

3.2 データセット

分析対象は、表1に示す31の教養系学科である³。そこで開講されている授業科目のデータは、各大学の学則、教育課程表、学生便覧といった資料から収集した。31学科の授業科目名称データの量的概要は次のとおりである。件数は合計10,848件であり、そのうち共通科目は3,866件、専門科目は6,982件である。各授業科目名称データに対して、「必修」「専門」「授業科目分類」の各項目に名義尺度を設け、データセットを作成した。表2にデータセットのイメージとデータ入力規則を示す。

4. 【分析1】学部・学科・学位付記専攻分野名称の分類

4.1 学問分野分類のための分類軸

本節では学問分野の分類を設定する。分類には栗原(2018, 2019a)と同様の分類軸を使用する。

本分類軸は、アメリカの高等教育機関のカーネギー分類の基準表の考え方を参考にしている。同基準表は「学士課程における専攻をアーツ・アンド・サイエンスと専門職業領域とで二分しており、職業と直結しない学問領域と、直結する学問領域という区別が、現代でも重要な分類基準」(吉田2013)である。これを基本とし、学問分野の専門分化の流れを踏まえ、「学芸」「科学」「学際」又は「職業」のいずれかのカテゴリーに区分する分類軸を表3のとおりを設定する。

各カテゴリーについて簡単に説明すると、カーネギー分類基準は学芸・科学領域か職業領域かを、明確に区分する考え方があるので、本稿もそれに従う。ただし、学芸・科学領域は、扱う分野が大幅に広範化しているため、「学芸」(主に人文科学と職業教育に直結しない社会科学分野)又は「科学」(主に自然科学分野)のいずれかに大別する視点を付加する。さらに比較的現代的で複数の専門領域に亘る分野は「学際」に区分する。なお学芸・科学の両分野を幅広く扱うと考えられるケースも考えられるため、「学芸・科学」のカテゴリーも加えて整理する。

4.2 学部名称の分類

最初に教養系学科の設置母体となる学部を確認する。表4は学部名称を抜き出し、集計したものである。教養学部、学芸学部、リベラルアーツ学部、国際教養学部といった教養系学部以外においても、文学部や外国語学部という人文系学部に教養系学科が設置されている。学部としては国際教養学部が最も多く11学部ある。また学部名称に

³ 分析対象の選定には、串本(2019)のデータセット(NPO法人教育ソリューション協会「全国学校データ」)を使用した。

表1 分析対象の教養系学科

No.	大学名	学部名	学科名	学位付記専攻分野名称	パターン	状 況
1	東京大学	教養学部	教養学科	教養	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
2	埼玉大学	教養学部	教養学科	教養	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
3	放送大学	教養学部	教養学科	教養	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
4	千葉大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
5	千葉商科大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
6	開智国際大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
7	順天堂大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
8	上智大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
9	創価大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
10	早稲田大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
11	中京大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
12	南山大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
13	中国学園大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
14	追手門学院大学	国際教養学部	国際教養学科	国際教養学	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
15	玉川大学	リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	リベラルアーツ	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
16	帝塚山学院大学	リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	リベラルアーツ	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
17	山梨学院大学	国際リベラルアーツ学部	国際リベラルアーツ学科	国際リベラルアーツ	A	学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ
18	中央学院大学	現代教養学部	現代教養学科	教養学	B	学部名・学科名が同じだが、学位付記専攻分野名称が違う
19	法政大学	グローバル教養学部	グローバル教養学科	国際教養学	B	学部名・学科名が同じだが、学位付記専攻分野名称が違う
20	いわき明星大学	教養学部	地域教養学科	教養	C	学部名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学科名が違う
21	群馬県立女子大学	文学部	総合教養学科	文学	C	学部名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学科名が違う
22	日本大学	国際関係学部	国際教養学科	国際関係	C	学部名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学科名が違う
23	国際基督教大学	教養学部	アーツ・サイエンス学科	教養	C	学部名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学科名が違う
24	昭和女子大学	人間社会学部	現代教養学科	人間社会学	C	学部名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学科名が違う
25	福岡女子大学	国際文理学部	国際教養学科	国際教養	D	学科名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学部名が違う
26	名古屋外国語大学	外国語学部	世界教養学科	世界教養	D	学科名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学部名が違う
27	同志社女子大学	学芸学部	国際教養学科	国際教養学	D	学科名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学部名が違う
28	愛知大学	国際コミュニケーション学部	国際教養学科	国際教養学	D	学科名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学部名が違う
29	神戸女子大学	文学部	国際教養学科	国際教養学	D	学科名・学位付記専攻分野名称が同じだが、学部名が違う
30	名古屋外国語大学	現代国際学部	国際教養学科	国際学	E	いずれも異なる
31	名古屋商科大学	国際学部	グローバル教養学科	教養	E	いずれも異なる

表2 データセットのイメージ

id	大学	学科名称	科目名	必修	専門	授業科目分類_著者A	授業科目分類_著者B	授業科目分類_最終	一致確認
3150	国際基督教	アーツ・サイエンス	キリスト教概論	1	0	08_哲学・思想・宗教	08_哲学・思想・宗教	08_哲学・思想・宗教	
3152	国際基督教	アーツ・サイエンス	美術の世界	0	0	10_芸術	10_芸術	10_芸術	
3154	国際基督教	アーツ・サイエンス	音楽の世界	0	0	10_芸術	10_芸術	10_芸術	
3173	国際基督教	アーツ・サイエンス	生命科学 (A)	0	0	25_生命・生物	25_生命・生物	25_生命・生物	
3174	国際基督教	アーツ・サイエンス	物理の世界 (A) —科学的な考え方	0	0	28_数学・物理	28_数学・物理	28_数学・物理	
3176	国際基督教	アーツ・サイエンス	自然の化学的基礎	0	0	28_化学	28_化学	28_化学	
3179	国際基督教	アーツ・サイエンス	情報科学概論	0	0	31_情報科学	31_情報科学	31_情報科学	

[データ入力規則]

- ① id: データに対する固有の番号
- ② 大学: 大学名を入力する。
- ③ 学科名称: 学科名称を入力する。
- ④ 科目名: 授業科目名を入力する。ただし「□□概論 (A組)」「□□概論 (B組)」「□□概論 (C組)」といった表記があった場合、授業時間割上で識別する情報であるためカッコ内は削除し、同一科目として3件を1件としてカウントする。日英両語併記の場合は日本語のみ数える。
- ⑤ 必修: 当該科目が必修科目であれば「1」とし、選択・選択必修は「0」とする。
- ⑥ 専門: 当該科目が専門教育科目であれば「1」とし、それ以外は「0」とする。卒業要件上、共通科目の設定がない場合は、全て専門科目と見做す。
- ⑦ 授業科目分類: 教養系学科に共通して扱われる授業科目分野をリストから選び入力する (手順の詳細は5.1 授業科目分類の設定及び5.2 授業科目分類による開講科目数の割合 (相対度数) を参照)。

表3 学問分野の分類

カテゴリー	主な学問分野	カーネギー分類上の区分
学芸	外国語, 言語学, 文学, 心理学, 地域・民族・文化研究, メディア研究, 社会科学, 美術, 音楽 等	Arts and Sciences
科学	生物学, 化学, 数学, 物理学, 統計, 情報科学, 科学技術, 社会技術 等	Arts and Sciences
学際	環境学, 地理学, 国際・グローバル研究, ジェンダー研究, 平和学・紛争解決, 脳科学, 認知科学 等	Arts and Sciences
職業	医学, 法学, 会計学, 教育学, 行政学, 工学, データ処理, 情報処理, コンピュータ, ネットワーク, 家政学, レジャー・フィットネス研究, 体育, 防災学, 臨床心理学, デザイン 等	Professions

表4 学部名称の分類

カテゴリー	学 部	件数
学芸	文学部	2
	学芸学部	1
	外国語学部	1
学芸・科学	教養学部	5
	リベラルアーツ学部	2
	現代教養学部	1
学際	国際教養学部	11
	グローバル教養学部	1
	現代国際学部	1
	国際コミュニケーション学部	1
	国際リベラルアーツ学部	1
	国際学部	1
	国際関係学部	1
	国際文理学部	1
	人間社会学部	1

学芸13% 学芸・科学26% 学際61%

「国際」を冠する例は国際教養学部を含めて18学部を数える。大学設置基準の大綱化以降、各種自由化により、様々な学部名称や学科名称が登場したことは周知のとおりであり、現在では「国際」を冠した教養系学部が多数派であることがわかる。こうした国際教養学部について、「人気の秘密は『教養』ではなく、その前につく『国際』にある」(IDE大学協会編集部 2014) という見方もあるように、本分析でも実際にその特徴がよく表れている。表の下に示した学問分野分類の結果の割合を見ると、学芸13%、学芸・科学26%、学際61%となっており、学際系の学部に教養系学科が設置されていることが確認できよう。

4.3 学科名称の分類

次に学科名称を整理した結果を表5で見てもよ

表5 学科名称の分類

カテゴリー	学科名	件数
学芸・科学	教養学科	3
	リベラルアーツ学科	2
	現代教養学科	2
	アーツ・サイエンス学科	1
	総合教養学科	1
学際	国際教養学科	17
	グローバル教養学科	2
	国際リベラルアーツ学科	1
	世界教養学科	1
	地域教養学科	1

学芸・科学29% 学際71%

う。本稿では「教養系学科」として一括りに扱っているが、具体的な学科の名称を整理しておく。学部名称と同様に国際教養学科が最も多く17件となっている。学問分野分類結果の割合を見ると、学芸・科学29%に対して学際の割合が71%となり高い。「学際」に区分された学科名称には、国際、グローバル、世界、地域といった対象やエリアに関する用語が用いられている。

4.4 学位付記専攻分野名称の分類

学位付記専攻分野名称の語義については、学校教育法第104条第1項に、大学は「文部科学大臣の定めるところにより、大学を卒業した者に対し学士の学位を授与するものとする」と規定されており、各大学は卒業要件を充足した学生に「学士(〇〇)」という一種の称号を学位として授与し、括弧には専攻分野の名称が付記される。すなわち、学位付記専攻分野名称には、大学を卒業したと教育成果を証明する機能があるといえる。

表6 学位付記専攻分野名称の分類

カテゴリー	学位付記専攻分野名称	件数
学芸	文学	1
	人間社会学	1
学芸・科学	教養(学)	7
	リベラルアーツ	2
学際	国際教養(学)	16
	国際リベラルアーツ	1
	国際学	1
	国際関係	1
	世界教養	1

学芸6% 学芸・科学29% 学際65%

こうした特性を踏まえ、学位付記専攻分野名称の分類を見てみよう。表6では、学部名称及び学科名称と同様に「国際教養(学)」という専攻分野名称が最も多く16件となっている。学問分野分類結果の割合を見ると、学芸6%、学芸・科学29%、学際65%であり、やはり「学際」区分の割合が高い。国際、世界といった対象やエリアを想起させる単語が含まれている例が多い点は、学部名称や学科名称の分析と同様である。

4.5 小括

小括としてここまでの検討結果をまとめておく。4.2. 学部名称の分類、4.3. 学科名称の分類、4.4. 学位付記専攻分野名称の分類の結果においては、「学際」の割合はそれぞれ順に61%、71%、65%であり、「学芸」ないし「学芸・科学」分野の割合より高い傾向がある。また「職業」「科学」は用いられていない。さらに各段階に共通して、国際、世界といった対象やエリアを想起させる用語が多い傾向が目立った。

他方、教養系学部を分析対象とした栗原(2018)では、学位付記専攻分野名称の分析段階で、「学芸」28%、「学芸・科学」13%、「学際」33%に加えて、「職業」22%や「科学」4%の分類結果の割合が示された。教養系学部の構成学科と教養系学科の構成学科の違いが、授与される学位付記専攻分野名称に「職業」及び「科学」の分野が含まれるか否かに表れている。この点から、教養系学科のカリキュラムが扱う学問分野の幅広さや多様性は、教養系学部のカリキュラムのそれより範囲が狭くなることが予想できる。ただ同時に、本稿で課題としているカリキュラムの共通性の具体的な把握には、より精緻化させて、授業科目名称を分析する必要があると確認できよう。

さらに補足として各名称面の傾向を、表1を用いて整理しておく。教養系学科においては、それらの学部名称、学科名称及び学位付記専攻分野名称の3つの名称の間に、AからEの5つのパターンを見出すことができる。Aは学部名・学科名・学位付記専攻分野名称が同じ、Bは学部名・学科名が同じだが学位付記専攻分野名称が違う、Cは学部名・学位付記専攻分野名称が同じだが学科名が違う、Dは学科名・学位付記専攻分野名称が同じだが学部名が違う、Eはいずれも異なる、と

いった様相となっている。学科数としては、Aパターンは17学科、Bパターンは2学科、Cパターンは5学科、Dパターンも5学科、Eパターンが2学科となっている。また、教養系学科であっても教養系の学位付記専攻分野名称となっていない例が若干あることを付言しておく。

5. 【分析2】授業科目名称の計量分析

この章では、授業科目名称を計量分析し、各教養系学科間のカリキュラムの共通性を探索する。まず5.1.では「授業科目名称」そのものを対象とし、計量テキスト分析を行い、頻出語を計測する。その傾向から「授業科目分類」、すなわち教養系学科において共通して取り上げられる授業科目の分野を、共通性の分類軸として設定する作業を行う。続いて5.2.では、教養系学科における10,848件の授業科目を授業科目分類に置き換えた後、それを各学科別に集計し分野ごとに開講科目割合（相対度数）を算出し、数値的に各学科間の共通性を確認する。最後に5.3.では、授業科目分類ごとの相対度数と、各学科の設置年度、偏差値、改組等といった学科属性に係る変数との間の相関係数を分析し、共通性との関係を考察していく。

5.1 授業科目分類の設定

授業科目名称の頻出語の計測には計量テキストツールである「KH Coder」（樋口 2014）を用いた。解析手順は次のとおりとする。

- ① 授業科目10,848件のデータのテキスト・ファイルを準備し、「KH Coder」に投入する。
- ② 同ソフトのうち、基本となる機能である「頻出語リスト」の1列を選択して生成し、出現件数の多いものから順に単語を抽出する。
- ③ この際、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「科学技術」「社会技術」「情報科学」「情報処理」「データ処理」「フィットネス」「中国語」「日本語」「韓国語」「韓国・朝鮮語」「英語」「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「イタリア語」「ポルトガル語」「ロシア語」といった複合名詞は、一語とし

てカウントするために強制抽出できるように予め設定しておく。

- ④ 出力された単語は2,578語であった。このうち、頻出語としてカウントされた記号（1, 2, A, B, I, II等）と英語の冠詞・前置詞のデータを除くクリーニング作業を行う。また、大文字と小文字、半角と全角、「サステナビリティ」・「サステナビリティー」といった、表記のゆらぎにより別にカウントされた単語は一語として合算する。なお英語の単数形と複数形は区別する。作業後の有効な頻出語の種類は2,357単語であり、これに出現件数を乗じた延べ単語数は27,761語である。
- ⑤ 作業の効率性を考え、出現件数が10回以下の単語を除外し、出現件数が11回以上の単語の414種類に絞る。414単語が得られた元の延べ単語数は22,867語であり、全体の延べ単語数の82%を網羅している。
- ⑥ 414語の頻出語に対して、授業科目分類を設定する。作業は、まず一人の筆者が頻出語に対して、適宜実際の授業科目名称を参照しながら、背後にある授業科目のテーマを類推しカテゴリーを名付けていく。次にもう一人の筆者が、頻出語とカテゴリーの親和性を確認し、同じ手順でカテゴリー付けを行う。判断が一致しなかった頻出語は29種類あった。これらに対して筆者間で協議し、よりふさわしいと考えられるカテゴリーに区分した。頻出語の傾向と「授業科目分類」の関係は補表に示している。

以上の手順を経て整理したものが表7「授業科目分類」であり、43のカテゴリーで構成されている。本分類は、教養系学科の授業科目名称における頻出語情報を集約的に示したものといえる。多種多様な授業科目の全体像を把握し、教養系学科間の共通性を測るために、本分類軸が有効になると考える。

5.2 授業科目分類による開講科目数の割合（相対度数）

教養系学科を単位⁴として前節の授業科目分類

⁴ 名古屋外国語大学現代国際学部国際教養学科と同外国語学部世界教養学科は、両学科で共通する科目がある。このため、一部の共通科目等の授業科目はそれぞれの学科でカウントする。

表7 授業科目分類

01_英語	23_教育
02_独仏伊西露語	24_科学技術・自然科学
03_中韓国語	25_生命・生物
04_その他外国語	26_環境
05_言語・文学	27_数学・物理
06_日本語	28_化学
07_文化・文明	29_地球科学
08_哲学・思想・宗教	30_工学
09_歴史	31_情報科学
10_芸術	32_調査法・統計
11_社会	33_総合・総論
12_心理学	34_体育・スポーツ
13_コミュニケーション	35_情報処理
14_ジェンダー	36_卒業論文等
15_平和	37_キャリア形成
16_地域研究	38_大学の適応支援科目
17_国際・グローバル研究	39_学術的文章作成・発表スキル
18_政策・政治・行政	40_教職関係科目
19_法学	41_資格・検定準備科目
20_経済・金融	42_留学
21_経営・マネジメント	43_その他
22_会計	

を使い、全授業科目データ10,848件を「授業科目分類」の各分野に分類して置き換えていく⁵。手続きは次のとおりとする。

- ① 最初に筆者の一人が各授業科目名称に対して、授業科目分類の中から内容的にふさわしいと判断されるカテゴリーに分類する。複数の分野の分類に亘ると思われた場合は、必要に応じて、当該授業科目の講義概要やシラバス等も参照する。
- ② さらに他方の筆者が分類結果の妥当性を検証するとともに、同様の手続きで分類作業を行う手順を踏む。当てはめた授業科目分類が、最初の作業をした筆者と一致していれば、分類結果について妥当と判断できると考える。
- ③ 判断が一致しない場合は、表2における「一致確認」の列において「不一致」と示さ

れるように設定しておく。実際に不一致となった118件の授業科目については、ここでも筆者間で協議の上、最も合うと思われるいずれかの区分に分類を行った。

- ④ 次に大学ごとかつ授業科目分類ごとのクロス表を作成の上、科目数を集計する。さらに各教養系学科の全開講科目数を分母に、分野毎の科目数を分子とした相対度数を集計する。この開講科目割合をまとめたのが表8である。

表8には、表頭に学科名称分類、学科名称及び大学名、表側に授業科目分類のカテゴリーを記している。これらの区分に従い相対度数を%の単位で示している。状況をつかみやすくするために、セルを次のように分けして示している。全体の平均値が2.4%なので、薄い灰色は0.1%以上2.4%未満、濃い灰色は2.4%以上5%未満、黒色は5%以上、そして白色は0%を示している。

まず、結果を縦方向に見ると、上の分野群は相対度数が比較的高い傾向があり、多くの学科においてその分野の授業科目が比較的多く開講されていることがわかる。逆に表の下に行くほどセルの色が全般的に薄くなり、当該学科ではその分野の授業科目が開講されなかったり、ごく少ない授業科目数となっていたりすることを意味している。

他方、横方向に着目すると、例えば上の方に位置している英語、文化・文明、地域研究といった分野は、全学科で扱われていることがわかる。逆に、科学技術・自然科学、会計、地球科学等の分野は、それらが扱われない学科が全体の3分の1以上あるということが読み取れる。こうした状況を整理したのが、表8の「当該分野が扱われない学科数」の列である。この値が0であれば、全31学科で扱われている分野ということを示しており、相対度数合計が10番目までの分野がこれにあたる。また上位22番目までの分野は、31学科のうち9割以上の学科で扱われているということが見てとれ

⁵ デュルケーム(1980)は「分類」について、「事物を分類するということは、事物を明確に定められた境界線によって区別できる別々の群に整理すること」や、「単に集合体を構成することだけではなく、これらの集合体を特殊の関係に従って配列すること」と説明している。分類論には、集合体の「境界線」の規定方法や「特殊の関係」を設定する際に、様々な視座が設定され得ることが想定される。このため本稿においても、万人が納得する普遍的で完全な分類基準を提示することは難しく、ここに限界がある。しかしながら、本稿ではこの点を了解した上で、教養系学科におけるカリキュラムの共通性の現状を把握するために、授業科目名称の実状を基盤とした「授業科目分類」を用いて、授業科目名称の分類作業を進めたい。

表8 授業科目分類に基づく分野ごとの開講科目数の割合

学科名称分類		学芸・科学										学際																											
学科名称		サイエンス	アーツ	リベラルアーツ	教養			現代教養		総合教養	グローバル教養	国際教養	国際教養																	世界教養	地域教養								
学科名称	大学名	国際基督教大学	玉川大学	帝塚山学院大学	埼玉大学	東京大学	放送大学	昭和女子大学	中央学院大学	群馬県立女子大学	法政大学	名古屋商科大学	山梨学院大学	愛知学院大学	開智国際大学	順天堂大学	上智大学	神戸女子大学	千葉大学	千葉商科大学	創価大学	早稲田大学	中国学園大学	追手門学院大学	同志社女子大学	南山大学	日本女子大学	福岡女子大学	名古屋外国語・国際大学	名古屋外国語・国際大学	い	わ	き	明	星	（％）	全学科の開講科目割合	当該分野が扱われない学科数（学科）	全学科の開講科目数
		01_英語	1.4	4.2	8.2	5.2	0.8	1.3	5.6	5.8	10.3	11.8	21.1	6.5	5.5	11.8	11.5	3.9	11.5	7.1	11.4	6.5	8.0	5.3	15.5	9.0	8.8	15.0	10.4	12.9	14.4	3.6	11.0	7.2	0	780			
07_文化・文明		3.9	6.0	3.4	18.4	12.3	0.6	4.2	9.3	7.0	3.3	5.7	4.3	11.4	4.8	8.3	6.0	1.4	4.7	3.0	1.0	5.3	2.7	5.0	6.1	8.4	4.8	7.5	8.4	8.3	9.9	4.2	7.2	0	780				
05_言語・文学		8.8	8.3	14.4	10.2	9.6	4.2	3.1	5.2	5.2	6.5	2.0	7.2	2.3	3.2	6.4	13.0	1.9	2.0	2.4	1.9	5.9	2.7	2.5	8.6	4.4	2.1	2.9	12.9	1.8	1.8	2.5	6.1	0	666				
16_地域研究		1.2	6.9	3.8	8.1	10.3	2.9	4.5	4.1	1.5	2.4	4.5	0.7	6.8	2.1	0.6	5.3	6.7	11.1	7.2	2.3	8.6	3.0	6.2	7.6	7.1	3.9	5.4	3.2	7.9	3.9	6.8	5.4	0	591				
17_国際・グローバル研究		3.2	6.9	1.4	2.6	2.4	2.6	1.6	0.6	0.9	7.3	6.1	2.9	5.2	5.3	14.0	3.9	5.8	6.7	3.0	11.7	4.5	2.0	3.7	4.4	3.4	4.2	3.6	4.2	2.7	2.1	0.4	3.7	0	402				
08_哲学・思想・宗教		6.2	8.8	1.4	3.8	6.5	2.9	1.4	10.5	4.9	1.2	1.2	5.0	3.3	2.7	3.8	6.3	1.9	2.4	2.4	1.6	3.0	3.3	3.1	1.0	5.4	4.2	2.5	1.6	1.3	1.8	1.3	3.7	0	396				
11_社会		4.5	2.3	1.0	5.2	2.8	6.1	8.5	4.7	5.5	5.3	3.7	2.9	2.3	1.6	3.2	4.9	2.4	5.7	3.0	1.3	4.5	0.7	0.6	2.2	2.4	3.3	3.9	2.3	1.8	0.9	4.6	3.7	0	396				
09_歴史		4.5	1.9	4.5	9.3	5.2	2.3	2.2	3.5	2.7	2.0	3.3	4.3	2.3	3.2	2.5	5.6	1.4	2.7	1.2	1.3	3.3	4.7	1.2	1.7	2.7	3.0	2.5	3.2	0.4	0.6	1.7	3.6	0	386				
20_経済・金融		3.8	0.5	0.3	1.6	1.7	1.9	1.3	2.9	0.3	3.3	1.2	5.8	2.9	5.3	1.3	6.3	1.4	0.7	4.8	1.9	4.5	0.7	1.9	1.0	0.3	1.8	1.4	7.4	0.9	0.6	3.8	2.2	0	243				
37_キャリア形成		0.4	2.8	2.7	0.9	0.1	0.3	1.4	0.6	2.4	0.8	3.7	2.2	1.3	3.2	3.8	1.8	3.4	0.7	6.0	6.1	0.6	1.0	6.2	8.1	3.0	1.2	0.7	0.3	4.0	3.0	3.4	2.0	0	219				
33_総合・総論		0.1	6.5	2.7	0.4	1.2	0.3	1.8	2.9	1.8	2.9	5.7	1.4	4.6	2.7	1.3	0.0	4.8	3.4	6.6	11.0	0.9	4.7	2.5	4.6	1.7	3.6	1.8	1.3	2.0	5.4	0.8	2.4	1	265				
35_情報処理		1.8	1.9	3.4	0.5	1.0	5.5	1.4	2.3	3.3	1.2	2.0	0.7	1.6	5.9	0.6	1.1	1.9	1.7	1.8	1.3	1.5	2.0	6.8	0.5	0.0	1.2	1.1	0.3	1.6	1.8	5.5	1.8	1	191				
12_心理学		2.5	5.6	0.7	0.5	0.6	6.1	0.9	2.9	0.9	4.1	2.0	1.4	0.3	13.9	1.9	0.0	1.9	0.7	0.6	0.3	0.9	0.3	0.6	0.5	1.7	0.9	0.7	0.6	0.2	0.3	9.3	1.7	1	181				
03_中国語		1.2	0.0	16.8	4.1	1.5	1.3	6.3	4.7	4.9	4.1	1.6	0.0	7.8	2.1	3.8	3.2	13.5	3.0	11.4	5.2	2.4	7.0	1.2	4.4	7.4	5.7	8.6	6.8	5.4	7.2	1.7	4.6	2	495				
10_芸術		3.6	4.6	10.0	4.6	3.7	1.9	1.8	0.6	2.7	5.7	0.0	25.9	1.6	1.1	1.3	6.0	1.4	2.0	1.8	0.6	5.3	0.0	2.5	0.2	1.7	1.8	0.7	1.9	2.0	1.8	0.4	3.1	2	331				
21_経営・マネジメント		1.5	1.9	0.0	0.7	0.2	3.2	1.4	1.2	1.2	8.2	3.3	2.2	2.9	8.0	1.9	9.1	2.9	2.0	1.8	3.6	3.6	0.0	5.6	2.2	1.0	0.3	5.4	3.5	6.5	4.2	7.6	2.6	2	284				
34_体育・スポーツ		2.4	0.5	3.1	0.3	0.8	1.3	0.5	2.3	0.9	0.8	3.3	2.2	2.0	1.6	5.1	0.4	7.2	6.7	0.0	1.9	0.0	10.6	1.2	5.4	1.3	3.6	2.1	1.0	0.7	0.9	1.3	2.0	2	222				
27_数学・物理		6.6	0.5	0.3	0.3	4.6	6.1	0.9	2.3	0.3	0.0	1.2	2.9	1.6	1.1	1.3	0.7	0.5	1.0	1.8	1.9	2.7	1.3	0.6	1.2	0.3	1.2	0.4	1.0	0.2	0.3	0.0	1.9	2	209				
26_環境		1.5	0.9	0.0	0.2	1.4	2.6	3.6	2.3	3.6	0.8	2.4	0.7	1.0	0.0	1.3	1.4	2.4	3.4	1.8	1.3	2.1	1.0	1.2	0.5	0.7	3.9	2.1	1.6	0.2	0.3	1.7	1.5	2	164				
32_調査法・統計		1.3	1.9	0.0	1.1	0.6	2.3	1.6	2.3	3.0	0.8	0.4	1.4	1.0	1.1	1.3	1.4	0.5	2.4	1.8	1.6	0.9	0.7	0.6	0.7	0.0	0.3	0.7	1.0	0.2	0.3	4.6	1.1	2	124				
18_政策・政治・行政		4.2	1.9	0.0	2.3	3.2	3.2	1.1	4.7	0.3	5.3	5.3	4.3	2.0	1.6	0.0	5.3	0.5	0.7	3.0	1.3	8.3	0.7	0.0	0.7	0.3	1.8	1.4	4.8	2.2	1.5	1.3	2.5	3	271				
19_法学		3.4	0.9	1.0	1.5	0.8	3.2	1.1	3.5	0.6	0.8	4.9	0.0	4.9	1.1	0.6	0.0	0.5	0.0	5.4	0.6	0.9	0.7	1.2	1.0	0.7	1.8	0.7	1.6	0.9	1.2	5.5	1.6	3	178				
02_独仏伊西露語		2.4	0.0	3.4	6.8	2.5	1.9	16.8	4.7	6.7	8.2	0.8	0.0	11.7	4.3	7.6	8.4	11.5	6.4	7.2	9.7	8.9	25.6	0.0	4.9	16.2	10.8	12.9	3.9	13.5	18.1	0.0	7.6	4	820				
43_その他		2.3	5.1	3.1	0.9	9.6	15.2	8.3	1.7	3.3	0.8	0.8	0.0	0.0	2.7	5.1	0.7	2.4	4.0	2.4	0.0	1.2	0.7	0.0	2.2	3.7	0.9	3.9	0.3	2.7	3.6	2.1	3.4	4	364				
13_コミュニケーション		1.3	1.4	0.3	0.3	0.1	0.3	2.5	5.2	0.3	0.0	1.2	0.0	2.6	0.5	5.7	0.0	1.9	1.3	0.0	0.6	0.6	0.0	1.9	2.2	1.3	0.3	0.4	1.9	0.7	0.3	1.7	1.0	5	111				
06_日本語		2.8	4.6	2.1	2.8	0.8	1.6	1.3	2.3	4.6	0.0	0.4	6.5	0.3	1.1	0.0	1.1	0.5	1.0	1.2	0.0	0.0	5.3	2.5	3.7	1.3	4.8	5.7	4.8	0.0	0.0	1.3	2.0	6	222				
25_生命・生物		3.3	0.5	0.7	0.2	2.7	2.6	0.4	2.3	0.6	0.0	0.4	2.9	0.7	0.5	1.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.3	2.7	0.7	0.0	0.5	0.3	0.6	0.4	0.6	0.0	0.0	0.4	1.1	7	118				
23_教育		4.0	3.7	0.0	2.8	0.7	2.6	0.9	0.0	1.8	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	1.7	0.0	2.6	1.2	0.7	2.5	1.7	0.3	0.3	2.1	1.3	0.2	0.6	3.0	1.5	8	162				
14_ジェンダー		1.3	0.0	0.3	1.0	0.1	0.6	0.9	1.2	0.6	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.6	1.4	2.4	0.0	0.0	0.3	0.6	0.7	0.0	0.2	1.3	0.0	0.4	1.9	0.4	0.3	0.4	0.7	8	73				
36_卒業論文等		1.0	0.0	1.0	0.5	1.1	0.3	0.2	0.6	0.6	0.0	0.4	0.7	0.3	0.0	0.6	0.0	0.5	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.5	0.4	0.6	0.2	0.3	0.4	0.5	10	54				
40_教職関係科目		5.4	0.5	2.7	0.0	1.7	5.2	6.5	1.7	7.0	0.0	5.7	0.0	1.3	0.5	0.6	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	11.8	2.9	1.0	0.0	0.0	0.2	0.3	7.2	2.3	11	253				
42_留学		0.0	0.0	2.7	0.4	0.4	0.0	2.4	0.0	1.2	2.9	0.0	0.7	1.3	3.2	0.0	0.0	0.0	2.0	2.4	4.2	0.0	0.7	1.2	4.4	3.7	1.2	0.4	0.0	1.8	1.8	0.0	1.2	11	126				
24_科学技術・自然科学		0.4	3.2	0.0	0.2	1.0	0.6	0.0	1.2	0.6	0.4	0.0	2.2	0.3	0.0	0.6	0.7	0.0	3.4	0.0	0.0	0.9	0.0	0.6	1.0	0.7	0.9	0.0	0.6	0.0	0.0	0.4	0.6	11	63				
39_学術的文章作成・発表スキル		0.9	0.9	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8	0.8	1.4	0.3	1.1	0.6	0.0	0.0	2.4	1.2	1.6	0.0	0.0	2.5	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	2.4	0.8	0.6	12	61				
41_資格・検定準備科目		0.2	0.0	2.7	0.1	0.1	0.0	2.2	0.0	4.9	0.0	2.4	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.3	1.2	2.0	3.7	0.0	5.0	0.0	2.5	3.3	0.8	1.1	13	120				
22_会計		0.8	0.5	0.0	0.1	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.7	0.0	1.1	0.0	2.1	1.4	0.0	0.0	0.3	1.5	0.0	1.9	0.2	0.0	0.3	0.0	1.0	0.4	0.3	0.4	0.5	13	51				
04_その他外国語		1.4	0.0	0.0	0.8	2.3	0.3	0.7	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	10.4	0.3	1.3	1.2	0.0	0.0	7.2	1.1	0.0	10.6	14.2.4</								

攻分野名称における学問分野の分類結果では、「学際」が他の分野より多く中心的な存在であったが、ここでの授業科目名称の分析では、人文学・社会科学（職業に関する分野も含む）の領域が中心に構成されている。こうしたことから、学科・学位付記専攻分野名称と授業科目群との間に、学問領域の構成傾向の違いが生じているといえる。教養系学科の学科名称や学位付記専攻分野名称が持つ概念は、「学際」を含む様々な学問領域を幅広く学ぶカリキュラムとして理解される文脈が多いが、実際の教養系学科カリキュラムの観点からみると、自然科学領域の授業科目の開講科目数が少なく、人文学・社会科学（職業に関する分野も含む）分野の領域に比重が置かれている現状がわかる。

5.3 相対度数と学科属性に係る各変数の相関

最後に表10で、前節の相対度数を解析対象として学科属性に係る各変数との間の相関係数を分析し、カリキュラムの共通性との関連を検討していく。なお、データの欠損値・外れ値が認められた放送大学を除外し、30学科をサンプル⁶とする。

各学科の属性に係る変数は、以下の5つとする。すなわち、①学科設置年度、②学科収容定員、③偏差値⁷、④改組ダミー（当該大学のウェブサイトを確認し、学部学科等の改組により設置された場合に「1」とする）及び⑤国際教養学位ダミー（学位付記専攻分野名称が国際教養（学）の場合に「1」とする）の5種類である。これらのごく基本的な変数を選択した理由は、学科の基本的な構造が、カリキュラムの中心要素である授業科目の構成やその共通性にどの程度影響を与えているか確認するためである。この5変数と、表8の授業科目分類の分野数である43変数を併せて、48列・30行分の解析用のデータセットを作成し解析を行う。各学科の属性に係る変数の記述統計量は表9のとおりである。

表10の相関係数の分析を進めてみよう。表頭は学科属性変数であり、表側は授業科目分類を表し、各授業科目開講相対度数との相関係数を全ケースで整理している。学科属性変数のうち、最も多く

表9 学科属性変数記述統計量

変数	学科 設置年度	学科 収容定員	偏差値	改組 ダミー	国際教養 学位ダミー
平均	2008	555	46.9	0.3	0.6
最小値	1951	80	33.0	0.0	0.0
最大値	2018	2480	66.0	1.0	1.0
中央値	2013	400	47.5	0.0	1.0
標準偏差	14	550	9.9	0.5	0.5
n	30	30	30	30	30

のカテゴリーで有意な相関があったのは「偏差値」である。これを例に分析してみると、その他外国語、芸術、平和、工学、の分野との間で有意な正の相関があり、逆に英語、心理学、総合・総論、情報処理、キャリア形成、教職関係科目といった分野との間には有意な負の相関がある。各学科の偏差値が、その提供科目の構成や開講科目数の割合に一定の影響を与えていることがわかる。この他に「学科設置年度」「国際教養ダミー」「改組ダミー」の学科属性変数もいくつかの分野と有意な相関がある。「学科定員」はいずれの分野とも有意な相関がなかった。

次に授業科目分類の観点から分析する。各教養系学科のカリキュラムで共通性が確認できた22分野のうち、網掛けをした英語、言語・文学、歴史、芸術、心理学、国際・グローバル研究、経済・金融、総合・総論、体育・スポーツ、情報処理及びキャリア形成の11分野においては、学科属性変数と有意な相関がある。教養系学科のカリキュラムの共通性が見られる中で、特定の学科属性変数が開講授業科目数に影響を与えていることが確認できる。

具体的にいくつか検討してみると、言語・文学の分野は、改組ダミーとの間に正の相関が、逆に学科設置年度が比較的前から設置されている学科との間には負の相関がある。これは改組前の学科で言語や文学に関する授業科目が開設され、それが今日でも引き継がれており、教養系学科の出自が影響していると考えられる。国際・グローバル研究の分野は、学位付記専攻分野名称が国際教養（学）の学士の学位を授与する学科において、開講

⁶ 放送大学のデータは、偏差値が欠損しており、収容定員が50,000人であり、これを外れ値として認めた。

⁷ 偏差値も、串本（2019）のデータセット（NPO 法人教育ソリューション協会「全国学校データ」）を使用する。ここでの偏差値の定義は、同協会により「国内の大手と言われる予備校、進学塾等複数を参考資料」として編集されたものである。

表10 学科属性変数と授業科目分類ごとの授業開講相対度数との相関係数

授業科目分類	共通性	学科設置年度	学科定員	偏差値	改組 ダミー	国際教養 学位ダミー
01_英語	あり	.39*	-.18	-.37*	-.25	.28
02_独仏伊西露語		-.08	.06	.36	-.09	.18
03_中韓国語	あり	.10	-.02	-.03	.19	.09
04_その他外国語		.06	-.03	.50**	-.19	-.17
05_言語・文学	あり	-.50**	.31	.14	.45*	-.09
06_日本語		-.07	.17	-.31	.31	-.10
07_文化・文明	あり	-.03	-.02	.21	.14	-.30
08_哲学・思想・宗教	あり	-.19	.04	.21	.04	-.02
09_歴史	あり	-.41*	.09	.25	.19	-.09
10_芸術	あり	-.51**	.07	.48**	.17	-.07
11_社会	あり	-.26	-.01	.26	-.06	-.23
12_心理学	あり	.04	-.04	-.40*	-.14	-.15
13_コミュニケーション		.31	.15	-.30	.19	-.04
14_ジェンダー		-.50**	.07	.25	.20	-.09
15_平和		-.35	.09	.38*	.04	-.06
16_地域研究	あり	-.15	-.07	.20	.11	-.08
17_国際・グローバル研究	あり	.19	.10	.17	.11	.56**
18_政策・政治・行政	あり	-.19	.16	.33	.05	-.05
19_法学	あり	.29	.10	-.29	.06	-.31
20_経済・金融	あり	.14	.16	.07	.05	.38*
21_経営・マネジメント	あり	.22	.15	-.02	-.01	.21
22_会計		-.08	.21	.17	.15	.31
23_教育		-.31	.20	.17	.11	-.27
24_科学技術・自然科学		.02	.22	.19	-.02	.20
25_生命・生物		.04	.27	.07	-.02	-.04
26_環境	あり	.04	.00	.05	-.18	-.05
27_数学・物理	あり	.14	.11	.06	-.08	.29
28_化学		-.25	.22	.18	.16	-.18
29_地球科学		-.02	-.02	.34	-.23	.28
30_工学		-.24	.00	.37*	.11	-.01
31_情報科学		.03	.13	.05	.16	.16
32_調査法・統計	あり	.10	-.01	-.13	-.07	-.05
33_総合・総論	あり	.44*	-.23	-.36*	-.12	.15
34_体育・スポーツ	あり	.48**	.05	-.30	.06	.21
35_情報処理	あり	.28	-.18	-.51**	-.19	-.28
36_卒業論文等		-.05	-.13	.03	.05	-.25
37_キャリア形成	あり	.37*	-.26	-.52**	-.17	.17
38_大学の適応支援科目		.01	.15	-.15	.04	-.11
39_学術的文章作成・発表スキル		.31	-.26	-.15	-.37*	.15
40_教職関係科目		.02	-.16	-.47**	-.07	-.36*
41_資格・検定準備科目		-.13	-.15	-.16	.05	-.43*
42_留学		.22	-.27	-.07	-.25	.25
43_その他		-.22	-.03	.07	-.07	-.45*

注：値はスピアマンの順位相関

授業科目数の割合が高くなる傾向がある。ある意味当然のことであるが、国際教養学科は国際・グローバル研究に関する授業科目を多く開講していることがわかる。キャリア形成、情報処理の分野は、偏差値の低い大学で比較的多く関連科目が設けられており、実践的な職業教育に注力されていることが表れている。体育・スポーツの分野は学科設置年度と正の相関があり、近年設置された学科においてスポーツの種目ごとに科目を設定していることが影響していると考えられる。他方、芸術の分野は学科設置年度と負の相関、偏差値と正の相関があり、偏差値の高い伝統的な大学でこの分野の科目が比較的多く開講される傾向がある。

ここまでの分析で、各学科の偏差値や学科設置年度等の属性的な変数により、開講授業科目分野の科目数と割合に影響があり、特にカリキュラムの共通性といえる分野の半数となる11分野（網掛けあり）において、有意な相関があることを確認した。

しかし同時に、各属性変数と相対度数に特段有意な相関がない、カリキュラム共通性のある分野もある。それは、中韓国語、文化・文明、哲学・思想・宗教、社会、地域研究、政策・政治・行政、法学、経営・マネジメント、環境、数学・物理及び調査法・統計の11分野（網掛けなし）である。学科属性変数にあまり関連がないカテゴリーは、カリキュラムの共通性といえる分野の中でも、学科属性に左右されない比較的オーソドックスな分野だといえる。

6. まとめと議論

本稿の分析結果を要約としてまとめた後、議論として3点を示す。最後に今後の課題を挙げておく。

6.1 要約

まず【分析1】では教養系学科の現況を把握するために、学部名称、学科名称、学位付記専攻分野名称における学問分野の分類を行った。その結果からは、「学際」の割合の方が「学芸」「学芸・科学」より高い傾向を確認した。またこの分析段階では、「職業」「科学」が用いられていなかった。なお、各名称間の傾向を確認し、教養系学科において、それらの学部名称、学科名称及び学位付記専攻分野名称の3つの名称の間に、5つのパター

ンを見出すことができた。また教養系学科であっても教養系の学位付記専攻分野名称となっていない例が若干あった。

次に【分析2】では、授業科目名称を分析し、各教養系学科間の共通性を探索した。5.1で授業科目名称そのものを対象とし、計量テキスト分析により頻出語を計測した。その頻出語の傾向から、「授業科目分類」として43分野を共通性の分類軸として設定した。続いて5.2で、その分野ごとの開講授業科目数の割合を集計し、数値的に各学科間の共通性を確認した。その結果、各教養系学科の授業科目で共通して取り扱われている分野は、ほぼ人文学・社会科学の領域で構成されており、他方、自然科学の領域に係る授業科目の開講数は比較的小なかつた。9割以上の学科で少なくとも一つ以上の授業科目が共通して提供されている分野は、英語、文化・文明、言語・文学、地域研究、国際・グローバル研究、哲学・思想・宗教、社会、歴史、経済・金融、キャリア形成、総合・総論、情報処理、心理学、中韓国語、芸術、経営・マネジメント、体育・スポーツ、数学・物理、環境、調査法・統計、政策・政治・行政そして法学の22分野であった。こうした分野が授業科目として開講されているという点で、教養系学科カリキュラムに共通性といえることを確認した。

ここまでの分析結果から、教養系学科の学科名称が持つ概念は、「学際」分野を含む様々な学問領域を幅広く学ぶカリキュラムとして理解される文脈が多い中で、実際のカリキュラムをみると、自然科学領域の授業科目の開講数が比較的小なく、人文学・社会科学（職業に関する分野を含む）の領域に比重が置かれていることが明らかになった。教養系学科のカリキュラムは一見多様な印象を受けるが、授業科目名称を丁寧に分析することで、授業科目分類から見たカリキュラムの共通性や特徴が確認できるのである。

最後に5.2では、学科属性変数と授業科目分類ごとの開講科目数の割合（相対度数）の相関関係进行分析した。カリキュラムの共通性といえる22分野のうち、半数では、属性変数との間に有意な相関があった。逆にいえば、残りの11分野では属性変数と相対度数の間に相関は見られなかった。これらはカリキュラムの共通性といえる分野の中でも、学科属性によって相対度数が、左右されない比較

的オーソドックスな分野であることがわかった。

6.2 議論

第1に先行研究と本稿との関連について述べる。前述のとおり栗原(2018, 2019a, 2019b)を踏まえると、教養系学部内の教養系学科の授業科目は、「学芸」分野がかなり多く、次に「職業」分野が多くなると予測できた。しかしこの方法では主に「学芸」と「職業」の二分による整理に終始するため、それ以上の精緻な分析は期待できなかった。このため本稿では別の分類軸として「授業科目分類」を設定し、教養系学科内で開設される授業科目群について、先行研究より具体的な学問分野の構成を数量的に把握した上で、教養系学科におけるカリキュラムの共通性と、その中での学科属性変数と開講授業科目数の割合との相関を確認できた。この点が、本稿の独自性といえる。

他方、本庄(2019)は、教養系学部の3つのカリキュラム類型を示し、その多様性を整理した。専門履修型は、専門教育課程で提供される分野の幅は狭く、一般教育課程は専門教育課程の準備として、知識とスキルの習得を重視している傾向があるとしている。レイト・スペシャリゼーション型は、一般教育課程では知識を重視し、専門教育課程で提供される分野は比較的広いとする。また自由履修型は、専門教育課程の最初の段階では様々な分野の入門レベルの科目など特定の科目群の履修を求めるが、提供分野は限定的と述べている。

翻って本稿では教養系学科を対象として、カリキュラムの構成要素である授業科目名称を分析し、その共通性の範囲を把握した。教養系学科に先のカリキュラム類型を当てはめた場合は、その特徴がある程度出るとは想定できる。しかしこの3類型を予め条件設定して分析を進めると、目的としているカリキュラムの共通性を掌握しにくくなる懸念が生じる。本分析を終え、カリキュラムの共通性を確認するには、そうした予断を排し、多くの学科間で横断的に比較可能な「授業科目」に着目することが有用と確認できた。この点が本稿の意義といえる。

第2に本稿は大学教育における教養概念を検討

する側面もあったので、ここで考察しておく。館昭が、教養概念を巡る混乱は、早急に解消する必要がある(館1996)と指摘してから久しく、最近でも、「教養」は大学界でイメージ的な用語として多用され、混乱は複雑さを増している(児玉他編2018⁸)と述べられ、その状況は依然として変わっていない。また2000年代から、年々教養系学部の数が増えることにより、教養系学科も増加している。背景には、グローバル化の潮流の中でトータルな能力の養成が求められ、「教養」という語に複数の学問分野を包含する象徴的な意味が与えられていったこと(栗原2018)や、時代の潮流として多様な専門の幅広い学習や学際的な学問、実践的な外国語教育の人気の高まり(児玉他編2018⁹)がある。

そうした教養系学科が開設する授業科目は、人文・社会科学系科目が中心であり、自然科学に関する授業科目は少なかった。教養系学科という「教養」の持つイメージからは、自然科学分野を含めた「専門の幅広い学習」が展開されていると捉えられがちだが、現状は異なる結果となった。大学教育の教養概念に対するイメージやある種の理想像と現状との間には、そのようなギャップがある。複雑化した現代社会において、大学における「総合的教養教育」への期待が高まる分、各大学にはカリキュラム上の課題が残されていると考える。

第3に本稿の政策的含意を述べる。冒頭では、日本学術会議により大学教育における分野別質保証の参照基準が順次公表されている中、教養学関係の教育課程は参照基準という考え方に馴染まず、その学問体系も不在であることを確認した。

しかし【分析2】では、教養系学科カリキュラムにおいて、共通して取り上げられる授業科目の分野を見出すことができた。加えて、カリキュラムは、人文・社会系科目や、職業教育に関係する社会科学関連の授業科目で構成されており、逆に生物・化学、その他の自然科学に関する授業科目は、あまり開講されていないことが浮き彫りとなった。

繰り返しになるが、教養系学科と親和性のある「総合的教養教育」には、自然科学領域の授業科目も相応に扱うことが期待されているはずである。

⁸ 「教養の概念」の執筆者は館昭。

⁹ 「教養学部」の執筆者は吉田文。

本稿で確認したカリキュラムの共通性といえる授業科目分野だけでなく、「どのような学問分野や領域をどの程度、共通科目や専門科目において扱うべきか」という視点をもちながら、関係者が既存の各学問分野の参照基準に留意しつつ、「教養学の参照基準」の作成を検討することも必要ではなかろうか。例えば議論の端緒として、カリキュラムの共通性といえる分野の中で、学科属性変数に左右されない11分野から検討してもよいかもしれない。

なお、分析に用いた授業科目のデータセットには、必修科目や授業形態の情報も含まれていたが、十分に活用できなかった。この点については今後の課題として、別途検討したい。

謝辞

本稿は、JSPS 科研費18H01025「学士課程カリキュラムの共通性に関する実証分析」（基盤研究(B) 研究代表者：串本剛）の成果の一部である。記して助成に感謝する。

参考・引用文献

- 有本章編（2003）『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部
- 中央教育審議会（1971）『今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について（答申）』
- 中央教育審議会（2002）『新しい時代における教養教育の在り方について（答申）』
- 中央教育審議会（2005）『我が国の高等教育の将来像（答申）』
- 中央教育審議会（2018）『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』
- 大学改革支援・学位授与機構（2016）『新しい学士への途 学位授与申請案内 平成28年度版』
- 大学審議会（2000）『グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について（答申）』
- デュルケーム・エミール（1980）（小関藤一郎訳）『分類の未開形態』法政大学出版局
- 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版
- 広田照幸（2010）「分野別質保証のための参照基準について」『学術の動向』6, 日本学術協力財団, 12-20.
- 本庄秀明（2019）「日本における教養系学部のカリキュラム—専門履修・LS・自由履修の3類型と学びの内容に着目して—」『大学経営政策研究』9, 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース, 17-35.
- 『IDE 現代の高等教育』（編集後記）610, IDE 大学協会
- 井門富二夫（1985）『大学のカリキュラム』玉川大学出版部
- 児玉善仁他編（2018）『大学事典』平凡社
- 栗原郁太（2018）「日本の大学における『専門としての教養』の現状分析—教養系学部の専攻分野及びディプロマ・ポリシーの分析を通じて—」『大学経営政策研究』8, 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース, 75-91.
- 栗原郁太（2019a）「日本の教養系学部における学際性の特質—専門教育授業科目の名称の分析を通じて—」『大学経営政策研究』9, 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース, 17-35.
- 栗原郁太（2019b）「教養系学部の教育内容の多様性」『IDE 現代の高等教育』610, IDE 大学協会, 41-45.
- 串本剛（2004）「教育成果を用いた教養教育の評価活動」『高等教育研究』7, 137-155.
- 串本剛（2019）「現代日本における学士課程カリキュラムの共通性」『日本高等教育学会第22回大会発表要旨集録』, 日本高等教育学会第22回大会実行委員会
- 松下佳代（2019）「第5章 大学におけるカリキュラム」『現代カリキュラム研究の動向と展望』教育出版, 160-167.
- 中留武昭（2012）『大学のカリキュラムマネジメント』東信堂
- 日本高等教育開発協会・ベネッセ教育総合研究所編（2016）『大学生の主体的な学びを促すカリキュラム・デザイン アクティブ・ラーニングの組織的展開にむけて』ナカニシヤ出版
- 関正夫（1986）「戦後日本の大学における教育研究組織の変遷—国立大学の場合—」『大学論集』16, 広島大学大学教育センター, 1-24.
- 清水畏三・井門富二夫（1997）『大学カリキュラム

の再編成—これからの学士教育—』玉川大学
出版部

館昭 (1996) 「大学制度における教養概念に関する
一考察」『学位研究』5, 学位授与機構, 61-73.

吉田文 (2013) 『大学と教養教育—戦後日本におけ
る模索』岩波書店

(受稿日 令和元年10月28日)

(受理日 令和2年2月5日)

補表 教養系学科における授業科目名称の頻出語と授業科目分類

抽出語	出現回数	分類	抽出語	出現回数	分類	抽出語	出現回数	分類	抽出語	出現回数	分類
英語	453	01 英語	社会	632	11 社会	法学	43	19 法学	検定	35	41 資格・検定準備科目
ENGLISH	257	01 英語	現代	319	11 社会	法	38	19 法学	資格	33	41 資格・検定準備科目
READING	75	01 英語	メディア	110	11 社会	憲法	36	19 法学	TOEIC	33	41 資格・検定準備科目
会話	72	01 英語	人間	71	11 社会	日本国	20	19 法学	試験	29	41 資格・検定準備科目
WRITING	71	01 英語	MEDIA	48	11 社会	民法	11	19 法学	TOEFL	21	41 資格・検定準備科目
SKILLS	52	01 英語	MODERN	35	11 社会	経済	212	20 経済・金融	対策	15	41 資格・検定準備科目
LISTENING	33	01 英語	CONTEMPORARY	32	11 社会	ECONOMICS	32	20 経済・金融	海外	111	42 留学
INTENSIVE	29	01 英語	SOCIAL	32	11 社会	ECONOMY	23	20 経済・金融	研修	71	42 留学
Purposes	27	01 英語	SOCIETY	29	11 社会	マクロ	16	20 経済・金融	プログラム	39	42 留学
イングリッシュ	26	01 英語	市民	26	11 社会	ミクロ	15	20 経済・金融	留学	39	42 留学
SPEAKING	25	01 英語	COMPARATIVE	25	11 社会	金融	14	20 経済・金融	Abroad	27	42 留学
英会話	24	01 英語	人権	24	11 社会	計量	13	20 経済・金融	交換	13	42 留学
リーディング	17	01 英語	社会科学	22	11 社会	消費	12	20 経済・金融	演習	858	43 その他
ORAL	16	01 英語	Pre-Modern	19	11 社会	ECONOMIC	12	20 経済・金融	研究	582	43 その他
インテンシブ	16	01 英語	行動	18	11 社会	MICROECONOMICS	11	20 経済・金融	入門	292	43 その他
Grammar	12	01 英語	CITIZENSHIP	16	11 社会	経営	67	21 経営・マネジメント	概論	201	43 その他
Reading	7	01 英語	個人	16	11 社会	ビジネス	59	21 経営・マネジメント	特殊	187	43 その他
ドイツ語	240	02 独仏伊西露語	SOCIOLOGY	14	11 社会	観光	50	21 経営・マネジメント	中級	172	43 その他
フランス語	228	02 独仏伊西露語	コミュニティ	13	11 社会	BUSINESS	31	21 経営・マネジメント	実習	167	43 その他
スペイン語	139	02 独仏伊西露語	災害	12	11 社会	MANAGEMENT	26	21 経営・マネジメント	初級	164	43 その他
イタリア語	109	02 独仏伊西露語	社会	11	11 社会	マネジメント	24	21 経営・マネジメント	上級	147	43 その他
ロシア語	105	02 独仏伊西露語	労働	11	11 社会	企業	23	21 経営・マネジメント	講読	132	43 その他
FRENCH	40	02 独仏伊西露語	心理	177	12 心理学	管理	18	21 経営・マネジメント	講義	129	43 その他
SPANISH	37	02 独仏伊西露語	認知	24	12 心理学	産業	16	21 経営・マネジメント	特別	110	43 その他
中国語	268	03 中国語	臨床	17	12 心理学	MARKETING	11	21 経営・マネジメント	INTRODUCTION	99	43 その他
韓国語	127	03 中国語	Psychology	17	12 心理学	ゲーム	11	21 経営・マネジメント	SEMINAR	89	43 その他
CHINESE	41	03 中国語	コミュニケーション	153	13 コミュニケーション	会計	19	22 会計	表現	88	43 その他
ハングル	24	03 中国語	COMMUNICATION	65	13 コミュニケーション	教育	328	23 教育	ADVANCED	87	43 その他
KOREAN	18	03 中国語	ジェンダー	41	14 ジェンダー	発達	25	23 教育	理論	82	43 その他
韓国・朝鮮語	16	03 中国語	女性	24	14 ジェンダー	EDUCATION	20	23 教育	応用	68	43 その他
タイ	42	04 その他外国語	GENDER	11	14 ジェンダー	教授	18	23 教育	ACADEMIC	61	43 その他
ポルトガル語	41	04 その他外国語	平和	25	15 平和	科学	222	24 科学技術・自然科学	特	56	43 その他
インドネシア	37	04 その他外国語	日本	496	16 地域研究	分析	76	24 科学技術・自然科学	概説	55	43 その他
ラテン語	21	04 その他外国語	地域	204	16 地域研究	自然	28	24 科学技術・自然科学	文献	45	43 その他
文学	329	05 言語・文学	STUDIES	183	16 地域研究	自然科学	22	24 科学技術・自然科学	問題	43	43 その他
言語	254	05 言語・文学	アメリカ	96	16 地域研究	科学技術	19	24 科学技術・自然科学	実技	42	43 その他
古典	71	05 言語・文学	アジア	85	16 地域研究	SCIENCE	18	24 科学技術・自然科学	セミナー	40	43 その他
LITERATURE	45	05 言語・文学	中国	84	16 地域研究	生命	48	25 生命・生物	ワークショップ	40	43 その他
テキスト	43	05 言語・文学	JAPAN	78	16 地域研究	生物	47	25 生命・生物	学	40	43 その他
LANGUAGE	34	05 言語・文学	ヨーロッパ	77	16 地域研究	化学	57	26 化学	学術	40	43 その他
読む	27	05 言語・文学	フランス	73	16 地域研究	環境	143	27 環境	ゼミナール	39	43 その他
作文	23	05 言語・文学	地理	67	16 地域研究	資源	19	27 環境	TOPICS	38	43 その他
読解	23	05 言語・文学	韓国	62	16 地域研究	エネルギー	15	27 環境	Study	38	43 その他
ことば	22	05 言語・文学	イギリス	51	16 地域研究	Sustainability	14	27 環境	INTERMEDIATE	36	43 その他
文章	22	05 言語・文学	事情	49	16 地域研究	サステナビリティ	14	27 環境	実験	33	43 その他
音声	21	05 言語・文学	朝鮮	46	16 地域研究	ENVIRONMENTAL	13	27 環境	Special	31	43 その他
翻訳	21	05 言語・文学	東アジア	46	16 地域研究	数学	74	28 数学・物理	Workshop	31	43 その他
語学	20	05 言語・文学	ロシア	44	16 地域研究	物理	63	28 数学・物理	論文	29	43 その他
通訳	19	05 言語・文学	ラテンアメリカ	42	16 地域研究	数理	20	28 数学・物理	APM-	28	43 その他
国語	18	05 言語・文学	アラビア	37	16 地域研究	物質	15	28 数学・物理	ゼミ	28	43 その他
書道	15	05 言語・文学	ドイツ	37	16 地域研究	地球	41	29 地球科学	専門	28	43 その他
漢字	14	05 言語・文学	英	37	16 地域研究	宇宙	12	29 地球科学	BASIC	26	43 その他
物語	13	05 言語・文学	外国	32	16 地域研究	工学	36	30 工学	ISSUES	25	43 その他
LINGUISTICS	12	05 言語・文学	WORLD	31	16 地域研究	情報科学	15	31 情報科学	学修	24	43 その他
日本語	287	06 日本語	AMERICAN	27	16 地域研究	統計	56	32 調査法・統計	福祉	24	43 その他
JAPANESE	121	06 日本語	都市	26	16 地域研究	調査	49	32 調査法・統計	博物館	23	43 その他
文化	785	07 文化・文明	地中海	24	16 地域研究	方法	41	32 調査法・統計	Core	22	43 その他
比較	110	07 文化・文明	東欧	24	16 地域研究	質的	11	32 調査法・統計	Specific	22	43 その他
人類	74	07 文化・文明	米	23	16 地域研究	SURVEY	11	32 調査法・統計	COURSE	21	43 その他
CULTURE	65	07 文化・文明	イタリア	22	16 地域研究	教養	84	33 総合・総論	活用	19	43 その他
民族	47	07 文化・文明	総合	21	16 地域研究	総合	68	33 総合・総論	学ふ	19	43 その他
文法	43	07 文化・文明	日	18	16 地域研究	プロジェクト	34	33 総合・総論	講座	19	43 その他
表象	36	07 文化・文明	ギリシャ	16	16 地域研究	リベラルアーツ	25	33 総合・総論	図書館	19	43 その他
理解	32	07 文化・文明	ASIAN	15	16 地域研究	Integrated	24	33 総合・総論	論理	18	43 その他
欧米	30	07 文化・文明	ASIA	14	16 地域研究	Liberal	19	33 総合・総論	RESEARCH	18	43 その他
交流	21	07 文化・文明	フィールド	14	16 地域研究	スポーツ	121	34 体育・スポーツ	THEORY	17	43 その他
伝統	20	07 文化・文明	東南アジア	14	16 地域研究	健康	58	34 体育・スポーツ	科	17	43 その他
CULTURAL	20	07 文化・文明	時事	13	16 地域研究	体育	32	34 体育・スポーツ	Preparation	16	43 その他
HUMAN	19	07 文化・文明	中東	13	16 地域研究	運動	16	34 体育・スポーツ	する	16	43 その他
考古学	18	07 文化・文明	EAST	12	16 地域研究	身体	14	34 体育・スポーツ	医療	16	43 その他
芸能	16	07 文化・文明	スペイン	12	16 地域研究	フィットネス	12	34 体育・スポーツ	考える	16	43 その他
中世	15	07 文化・文明	中	12	16 地域研究	ティームスポーツ	12	34 体育・スポーツ	食	16	43 その他
ANTHROPOLOGY	12	07 文化・文明	オセアニア	12	16 地域研究	情報	144	35 情報処理	Understanding	15	43 その他
カルチャー	12	07 文化・文明	アフリカ	11	16 地域研究	システム	35	35 情報処理	資料	15	43 その他
技法	12	07 文化・文明	スラブ	11	16 地域研究	技術	31	35 情報処理	大学	15	43 その他
記号	11	07 文化・文明	英	1	16 地域研究	情報処理	30	35 情報処理	FILM	15	43 その他
京都	11	07 文化・文明	国際	377	17 国際・グローバル研究	コンピュータ	21	35 情報処理	Discussion	14	43 その他
民俗	11	07 文化・文明	世界	156	17 国際・グローバル研究	プログラミング	15	35 情報処理	LECTURE	14	43 その他
思想	136	08 哲学・思想・宗教	グローバル	99	17 国際・グローバル研究	データ	13	35 情報処理	PRINCIPLES	14	43 その他
哲学	117	08 哲学・思想・宗教	関係	77	17 国際・グローバル研究	TECHNOLOGY	11	35 情報処理	運用	14	43 その他
宗教	66	08 哲学・思想・宗教	INTERNATIONAL	68	17 国際・グローバル研究	卒業	42	36 卒業論文等	解析	14	43 その他
倫理	58	08 哲学・思想・宗教	開発	64	17 国際・グローバル研究	ジャバスタディーズ	27	36 卒業論文等	広域	14	43 その他
キリスト教	23	08 哲学・思想・宗教	GLOBAL	53	17 国際・グローバル研究	キャリア	84	37 キャリア形成	Analysis	13	43 その他
主義	20	08 哲学・思想・宗教	DEVELOPMENT	32	17 国際・グローバル研究	実践	84	37 キャリア形成	Comprehension	13	43 その他
PHILOSOPHY	19	08 哲学・思想・宗教	RELATIONS	28	17 国際・グローバル研究	デザイン	77	37 キャリア形成	アカデミック	13	43 その他
聖書	12	08 哲学・思想・宗教	GLS	26	17 国際・グローバル研究	インターンシップ	60	37 キャリア形成	看護	13	43 その他
RELIGION	12	08 哲学・思想・宗教	協力	17	17 国際・グローバル研究	ボランティア	31	37 キャリア形成	原論	13	43 その他
歴史	131	09 歴史	GLOBALIZATION	17	17 国際・グローバル研究	サービス	28	37 キャリア形成	Selected	13	43 その他
HISTORY	107	09 歴史	紛争	14	17 国際・グローバル研究	Design	22	37 キャリア形成	スタディ	12	43 その他
近代	59	09 歴史	外交	13	17 国際・グローバル研究	リーダーズプログラム	11	37 キャリア形成	スタディーズ	12	43 その他
西洋	59	09 歴史	保障	12	17 国際・グローバル研究	基礎	270	38 大学の適応支援科目	ラポート	12	43 その他
東洋	34	09 歴史	ガバナンス	12	17 国際・グローバル研究	生活	54	38 大学の適応支援科目	家族	12	43 その他
近世	27	09 歴史	安全	11	17 国際・グローバル研究	支援	17	38 大学の適応支援科目	科目	12	43 その他
芸術	77	10 芸術	政治	183	18 政策・政治・行政	リテラシー	38	39 学術的文書・発表スキル	出会う	12	43 その他
音楽	62	10 芸術	政策	51	18 政策・政治・行政	プレゼンテーション	19	39 学術的文書・発表スキル	精神	12	43 その他
ART	58	10 芸術	POLITICS	38	18 政策・政治・行政	ライティング	18	39 学術的文書・発表スキル	Program	12	43 その他
美術	40	10 芸術	POLITICAL	33	18 政策・政治・行政	PRESENTATION	15	39 学術的文書・発表スキル	Topics	11	43 その他
ARTS	36	10 芸術	公共	26	18 政策・政治・行政	指導	49	40 教職関係科目	課程	11	43 その他
VISUAL	23	10 芸術	POLICY	22	18 政策・政治・行政	教職	34	40 教職関係科目	思考	11	43 その他
Music	21	10 芸術	組織	21	18 政策・政治・行政	学習	32	40 教職関係科目	創造	11	43 その他
映画	18	10 芸術	行政	18	18 政策・政治・行政	児童	22	40 教職関係科目	大学生	11	43 その他
演劇	16	10 芸術	FOREIGN	13	18 政策・政治・行政	活動	17	40 教職関係科目	通年	11	43 その他
映像	12	10 芸術	PUBLIC	13	18 政策・政治・行政	学校	16	40 教職関係科目	やさしい	11	43 その他
アート	11	10 芸術				生涯	14	40 教職関係科目			

[ABSTRACT]

The Commonality in the Curriculum of Liberal Arts Departments at Japanese Universities:
Quantitative Analysis of Course Titles

KURIHARA Ikuta*, KUSHIMOTO Takeshi**

In this paper, the authors examined the commonality within the curricula of 31 liberal arts departments in Japanese universities. The analysis was broadly divided into two parts. First, the name of faculty, department, and degree field were classified and organized using the existing “academic field classification.” Next, using the original “course title classification” created by quantitative text analysis, courses in the curriculum applied to students entering in 2018 were classified, and the percentage of courses offered (relative frequency) was calculated for each field. As a result, it became clear that more than 90% of departments offered at least one course in 22 of 43 fields. In addition, we found that there was a correlation between the relative frequency and department attributes in some fields.

* Tsuda University, Assistant Head of Sponsored Research Office

** Tohoku University, Associate Professor, Institute for the Excellence in Higher Education